



何れにても行ふすゝいゝとてはしめて
 もはくしゝもてしゝもてしゝもてしゝ
 の廊よりすゝいゝとてはしめては
 しゝもてしゝもてしゝもてしゝ
 月や一にたゞあつたゝとてはしめて
 記あやしくもてしゝもてしゝ
 てゝもてしゝもてしゝもてしゝ
 なるゝもてしゝもてしゝもてしゝ
 へゝもてしゝもてしゝもてしゝ
 月ゝもてしゝもてしゝもてしゝ
 何れにても行ふすゝいゝとてはしめて

楊子

何れにても
 月や一に
 記あやしく
 てゝもてし

何れにても
 月や一に
 記あやしく
 てゝもてし

月
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十

推
の
水

けふの世にふりかへるる世は横あまのいまひ
 もうけを多く見ゆる所なり。河をい柳たに
 けふの世にふりかへるる世は横あまのいまひ
 けふの世にふりかへるる世は横あまのいまひ

ひつりてまじりあはれ

まぢりうらん

12

愛乃之橋

[illegible]

仁者存心計

此源氏物語繪於卷之盡以一咫友松筆

而為五卷詞意可深愚筆之也

